

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	福岡工業大学
設置者名	学校法人 福岡工業大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
工学部	電子情報工学科	夜・通信	4	-	14	18	13	
	生命環境化学科	夜・通信			14	18	13	
	知能機械工学科	夜・通信			14	18	13	
	電気工学科	夜・通信			14	18	13	
情報工学部	情報工学科	夜・通信		-	24	28	13	
	情報通信工学科	夜・通信			20	24	13	
	情報システム工学科	夜・通信			16	20	13	
	システムマネジメント学科 (情報マネジメント学科)	夜・通信			16	22	13	
社会環境学部	社会環境学科	夜・通信		-	14	18	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

『高等教育段階の教育費負担軽減新制度に係る実務経験のある教員による授業科目一覧』 http://www.fit.ac.jp/gakusei/zaigakusei/index

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	福岡工業大学
設置者名	学校法人 福岡工業大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページで公表 <https://www.fit.ac.jp/daigaku/syokai/yakuin>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 代表取締役会長	2024/11/29 - 2027 年度定時評議 員会終結時まで	就職
非常勤	株式会社 相談役 兼 監査役	2024/11/29 - 2027 年度定時評議 員会終結時まで	総務・渉外
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福岡工業大学
設置者名	学校法人 福岡工業大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

授業計画(シラバス)は、毎年2月に科目担当教員が『シラバス作成の手引き』及び『成績評価ガイドライン』に従い、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーはもとより、授業形態の表記、教職課程、実務経験、各授業のテーマ、授業外学習内容、ICTの活用、オフィスアワー等を考慮しながら、シラバス管理システムにて作成する。その後、各学科教員および教務課職員による第三者チェックにより、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの整合性や達成目標と成績評価方法等の適合性について確認する。この後、科目担当教員、教務課職員による修正の後、最終シラバスチェックを行い、4月1日にシラバスを公開する。なお、各シラバスには当該科目における前年度の授業アンケート結果がリンクされており、受講者の評価やコメントを参照することができる。

この他、シラバスの記載内容は、学生が理解できるように最大限配慮し、授業科目の目標や授業内容、参考図書、履修上のアドバイス、成績評価方法、成績評価基準等の記載内容等について、学生便覧に『シラバスの見方』を例示して説明している。また、各学科において習得する知識・能力(ディプロマ・ポリシー)と科目の関与度についても一覧表で示している。

●シラバスに記載する科目のディプロマ・ポリシーと達成目標(例)

DP	共通コンピテンシー		関与度 (%)	達成目標
DP1	A	幅広い教養	20	情報工学を学ぶ上で必要となる最低限の知識やスキルを修得し、活用することができる。
DP1	B	専門知識・技能		
DP2	C	ライフデザイン力		
DP2	D	メタ認知・実現力		
DP3	E	グローバルマインド	40	自主的に学修スケジュールを計画し、さらに他者との協働やチーム内での分担を通じて、着実かつ継続的に設定された課題を遂行することができる。
DP3	F	未来構想力	10	情報工学分野における数学や自然科学との関わりを理解し、説明することができる。
DP4	G	デジタル力		
DP4	H	発信力	30	論理的な記述、口頭発表・討議など基本的なコミュニケーションのスキルを身につけている。

授業計画書の公表方法	『シラバス（授業計画）検索』 http://www.fit.ac.jp/gakusei/zaigakusei/index 『福岡工業大学 学生便覧』 （修学—授業—シラバス（授業計画）に記載） http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rishu/binran_daigaku
------------	--

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

科目のディプロマ・ポリシーに対する達成目標を評価するため、以下のマトリックスを標準フォーマットとして、評価方法および評価割合をシラバスに記載している。科目担当教員は、授業に3分の2以上出席した学生に対し、学期末試験やレポート課題等を点数化し、成績評価基準表に従って厳格かつ適正に学修成果を評価し、単位を付与している。

●成績評価方法と割合（例）

成績評価方法						
評価方法		理解度確認テスト	小テスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	その他
評価割合（％）		60	15	15		10
成績評価の留意点		理解度確認テストの点数（60％）、小テストの点数（15％）、課題・レポートの内容（15％）、FIT AIMの記載状況（10％）に基づいて評価をおこなう。合計点が、60点未満を不可、60点以上かつ69点以下を可、70点以上かつ79点以下を良、80点以上かつ89点以下を優、90点以上を秀とする。				
DP1	A					
DP1	B	◎	○	△		
DP2	C					
DP2	D					
DP3	E					
DP3	F					
DP4	G	◎	△	○		△
DP4	H					

●成績評価の基準表

評価	秀	優	良	可	不可
評点	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0
評価基準	達成目標を理想的なレベルで達成し、きわめて優秀な成果をおさめている	達成目標を理想的なレベルで達成している	達成目標を標準的なレベルで達成している	達成目標を最低限達成している	達成目標を達成できていない

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPA、平均点、単位取得等の成績評価に基づき、各学科・各学年の成績順位表や成績分布表等を作成して状況の把握に努めており、学生は成績順位確認申請を行うことにより、学科内での順位を随時確認することができる。

GPA は、教務システムにて以下の式により自動計算され、教務課が作成する成績順位や成績分布の基礎資料として活用し、学科教員と都度情報の共有を行っている。なお、学生は成績順位は学業成績確認表で、GPA は WEB 成績照会や学業成績確認表で確認することができる。また、2022 年度入学生より GPA 制度を一部見直し、自律的学修促進の観点から成績の上書き制度を取り入れている。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{科目の単位数}) \times (\text{科目で得た GP}) \text{ の総和}}{\text{履修総単位数}}$$

評価	秀	優	良	可	認定	不可
評点	100～90	89～80	79～70	69～60	—	59～0
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	—	0

なお、次の科目は GPA の算定対象の除外科目となる。

- ・卒業単位に含まない科目（教職課程に関する科目、所属学科のカリキュラムでない科目など）
- ・認定科目

客観的な指標の
算出方法の公表方法

履 修 ガ イ ド 『 成 績 』
https://www.fit.ac.jp/gakusei/seika/rishu_guide

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学生が修得する資質・能力について、A～H を定義しており、この方針に基づき各学科におけるディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を設定し卒業認定および学位授与を行っている。工学部学生は 132 単位、情報工学部、並びに社会環境学部学生は 124 単位を取得すれば、ディプロマ・ポリシーに適う卒業に必要な資質・能力を修得したと教授会にて判定され、学長が学位を授与する。

- A. 幅広い教養：リベラルアーツを目指した知識と思考力
- B. 専門知識・技能：当該分野において必要とされる知識と技能
- C. ライフデザイン力：自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力
- D. メタ認知・実現力：自らを客観的に理解し、目標を実現できる力
- E. グローバルマインド：異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力
- F. 未来構想力：より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力
- G. デジタル力：数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力
- H. 発信力：自らの考えを適切に伝えることができる力

卒業の認定に関する
方針の公表方法

『福岡工業大学 ディプロマ・ポリシー』
<https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/>
履修ガイド『進級・卒業』
https://www.fit.ac.jp/gakusei/seika/rishu_guide

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	福岡工業大学
設置者名	学校法人 福岡工業大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/financial_statements http://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/reports/index
収支計算書又は損益計算書	https://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/financial_statements http://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/reports/index
財産目録	https://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/financial_statements
事業報告書	http://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/reports/index
監事による監査報告(書)	https://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/financial_statements

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 2026(令和8)年度事業計画書 対象年度: R8年度)
公表方法: http://www.fit.ac.jp/sp/daigaku/disclosure/business_plan
中長期計画(名称: 第10次中期経営計画[マスタープラン] 対象年度: R7年度~11年度)
公表方法: http://www.fit.ac.jp/daigaku/syokai/master_plan

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 『福岡工業大学 点検・評価報告書 2023』 大学評価 【大学】自己点検・評価/認証評価 情報公開 大学紹介・情報公開 福岡工業大学

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学基準協会『福岡工業大学に対する大学評価(認証評価)結果』 大学評価 【大学】自己点検・評価/認証評価 情報公開 大学紹介・情報公開 福岡工業大学 (fit.ac.jp)

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部電子情報工学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index ）
（概要） 現代社会において、科学技術者は、科学技術への貢献はもとより、社会人として自立し、広い視野に立ち柔軟な発想を行えることが求められている。本学科は、電子技術と情報技術が融合した技術分野において、このような要請に応えることができる実践型の人材の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/ ）
（概要） 幅広い教養 1. 問題解決の指針となる知の基盤として文理を問わない多様な知識を身につけ、実践の場で活用することができる。 2. 自他に対する批判的な思考を基礎として、幅広い視野から物事を捉え、自由な発想に基づいて科学的に思考することにより、的確な判断を下すことができる。 専門知識・技能 電子情報技術者として必要な電子情報工学の専門技術である電気回路・電子回路、計測制御・情報処理、半導体デバイスに関する知識を身につけ、適切に応用することができる。 ライフデザイン力 現在の自身の価値観と志向に基づいて将来のキャリアプランを提示することで自分の将来を設計・構想して独自の目標を設定し、その目標実現に必要なスキルを獲得する努力を行うことで成長を目指すことができる。 メタ認知・実現力 自ら認知している事柄を客観的に把握して不足している知識・能力を補完することにより、現実の制約条件のもとで実行可能な計画を立て、期限までに課題解決を図ることができる。 グローバルマインド 1. 社会とつながり、職場・地域・家庭などさまざまな生活の場で偏見の無い相互理解の下に積極的に他者と関わり、多様性を理解して直面している諸課題に関心を持ち、チームでプロジェクトを意欲的に進めることができる。 2. 地球及び人類の歴史と世界の経済システム及び地球環境問題・エネルギー問題・安全問題等を多面的に物事を考えて理解し、技術の将来を展望することができる。 未来構想力 未来の世代に残していきたい社会を想像し、そこに至る課題解決に必要な種々の学問・技術を学修することにより、解決を要求される課題に対して必要な技術・要件を把握して解決に至るまでのプロセスを提案することができる。また、創造的な応用能力を発揮してそれを実践することにより、身につけた電子情報技術を発展させることができる。 デジタル力 1. 自然科学、特に数学・物理学の基礎を修得・理解し、物事を本質から理解する姿勢を持つことができる。 2. 本質の理解を基に、論理的な判断を下す根拠として必要な情報を収集し、取得した情報の真偽を見極め、的確に整理・分析することができる。 発信力 国際的コミュニケーションの基礎能力である語学力を身につけ、外国人と意思疎通することができる。また、論理的な記述力を身につけて論理的かつ明晰な文章を記述できるとともに、コミュニケーション能力を高めて効果的なプレゼンテーションおよび討論を行うことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/ ）

(概要) 幅広い教養 幅広い教養を身につけ、常識的な正解にとらわれない自由な発想に基づいて思考することにより、自主的に判断することができる能力を修得するための科目を配置する。 専門知識・技能 電子情報技術者として必要な電子情報工学の専門技術に関する知識を身につけ、応用することができる能力を修得するための科目を配置する。 ライフデザイン力 自分の将来を設計・構想して独自の目標を設定し、その目標に向かって成長を目指すことができる能力を修得するための科目を配置する。 メタ認知・実現力 自ら認知している事柄を客観的に把握し、不足している知識・能力を補完することによって課題解決を図ることができる能力を修得するための科目を配置する。 グローバルマインド 多様性を理解して地球的視点から多面的に物事を考え、偏見の無い相互理解の下に積極的に他者と関わることによってチームでプロジェクトを進めることができる能力を修得するための科目を配置する。 未来構想力 未来の世代に残していきたい社会を想像し、それを実現するために必要な電子情報技術を身につけ、発展させることができる能力を修得するための科目を配置する。 デジタル力 数学・自然科学及び情報技術に関する知識を身につけ、それを応用することによって情報を的確に分析することができる能力を修得するための科目を配置する。 発信力 日本語による論理的な記述力、コミュニケーション能力及び国際的コミュニケーションの基礎能力を身につけ、活用することができる能力を修得するための科目を配置する。
入 学 者 の 受 入 れ に 関 す る 方 針 (公 表 方 法 : http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index)
(概要) 電子情報技術を身につけることで、社会の期待に応える意欲と姿勢を持つ人物を求めます。修学に必要な学力として、理数系科目の基礎知識を身につけていることが必要とされ、グローバル社会における意思伝達手段としての一定の英語力も求められます。特に数学は、数学 II / 数学 A / 数学 B (普通科生徒には数学 III も) を履修していることが望まれ、理科は物理の履修が望まれます。進学後に学ぶ電子情報工学に関心を持ち、継続的に学習する意思を持つことが重要です。一方、他人とのコミュニケーションや社会生活におけるマナーなどの基本的素養を身につけていることが望まれ、在学中もその素養を高める努力を怠らない高いモチベーションが求められます。

学部等名 工学部生命環境化学科
教育研究上の目的 (公表方法 : http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index)
(概要) 地球の様々な環境問題が深刻化する今日、環境の管理、保全、改善と修復の基本理念を理解し、物理・化学的、及び生物的アプローチ等の多様な先端技術を用いて、問題を解決する能力を持つ自立した物質系・生物系技術者の人材の養成を目的とする。
卒 業 又 は 修 了 の 認 定 に 関 す る 方 針 (公 表 方 法 : https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/)
(概要) 幅広い教養 自然科学的な手法を用いて、化学や生命科学に関する様々な問題に対して多角的視点から理解できる。 専門知識・技能 物質化学、環境・エネルギー、生命・食品化学に関する専門知識および実験技術の習得と、それらを問題解決に応用できる能力を身につけている。

ライフデザイン力

技術者としての将来のキャリアを展望し、構想した目標に向かって成長する能力を身につけている。

メタ認知・実現力

客観的な自己理解のもとでの確かな計画を立案・実行し、その進捗や成果を自己評価し、必要に応じて計画を修正しながら、成果をまとめる能力を身につけている。

グローバルマインド

様々な背景や考え方を持つ人々と積極的に関わり、他者と協力しながらチームで仕事を遂行する能力を身につけている。

未来構想力

実験・研究などを通して問題点を発見し、幅広い知識と情報を統合・応用して問題解決に導き、新しい解決策を構想する能力を身につけている。

デジタル力

自然科学に関する基礎知識とコンピュータ利用技術を習得し、それらを用いて情報を整理・分析し、問題解決に応用できる能力を身につけている。

発信力

日本語で理論的記述や口頭発表ができ、自らの考えを適切に伝えながら他者と意見交換ができる能力、および英語での基本的なコミュニケーション能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
<https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/>）

幅広い教養

自然科学的な手法を用いて、化学や生命科学に関する様々な問題に対して多角的視点から理解するための科目を配置する。

専門知識・技能

物質化学、環境・エネルギー、生命・食品化学に関する専門知識および実験技術の習得と、それらを問題解決に応用できる能力を身につけるための科目を配置する。

ライフデザイン力

技術者としての将来のキャリアを展望し、構想した目標に向かって成長する能力を身につけるための科目を配置する。

メタ認知・実現力

客観的な自己理解のもとでの確かな計画を立案・実行し、その進捗や成果を自己評価し、必要に応じて計画を修正しながら、成果をまとめる能力を身につけるための科目を配置する。

グローバルマインド

様々な背景や考え方を持つ人々と積極的に関わり、他者と協力しながらチームで仕事を遂行する能力を身につけるための科目を配置する。

未来構想力

実験・研究などを通して問題点を発見し、幅広い知識と情報を統合・応用して問題解決に導き、新しい解決策を構想する能力を身につけるための科目を配置する。

デジタル力

自然科学に関する基礎知識とコンピュータ利用技術を習得し、それらを用いて情報を整理・分析し、問題解決に応用できる能力を身につけるための科目を配置する。

発信力

日本語で理論的記述や口頭発表ができ、自らの考えを適切に伝えながら他者と意見交換ができる能力、および英語での基本的なコミュニケーション能力を身につけるための科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
<http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index>）

（概要）

数学・理科・英語の素養を持った学生、特に化学や生物学の視点から環境・エネルギー、物質化学、バイオ、食品のいずれかの学修分野に興味をもった学生の入学を希望します。また、直面する様々な課題を他者とともに主体的に解決していくための思考力、判断力、表現力やコミュニケーション能力を備えた学生の入学を希望します。さらに、入学後も主体的に自ら学習する意欲をもち実践していく学生を望みます。高等学校で数学や理科の履修が十分でない場合、または得意としていない場合は、入学前・入学後に、不足分を補完していこうとする強い意志のある学生でなければなりません。

学部等名 工学部知能機械工学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index ）
（概要） 情報技術と生産技術を融合した知能機械が主流となった機械分野において、基礎及び専門技術に関する知識と応用力を身につけるとともに、それらを駆使したデザイン能力とコミュニケーション能力を有し、技術者倫理をもってグローバルな活躍ができる人材の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/ ）
（概要） 幅広い教養 科学技術に広く関わる知識を身につけ、多面的視点から現象や物事を柔軟に考えることができる。 専門知識・技能 機械 4 力学を基礎として、高度な知能機械の設計、生産、計測と制御に必要な知識と技能を身につけ、問題解決に応用できる。 ライフデザイン力 科学技術が社会にどのように貢献できるかを考えて自分の将来を設計・構想し、自分自身を成長させることができる。 メタ認知・実現力 与えられた課題に対して計画を立て、自らの作業を客観的にとらえながら目標を実現することができる。 グローバルマインド 多様な価値観の構成員グループにおいて、自身および他者の役割を理解し、構成員と協調して与えられた課題を解決できる。 未来構想力 人々の生活が豊かになる未来を構想し、その実現のために種々の科目で得た専門知識と技術を融合して新しい提案をすることができる。 デジタル力 数理の基礎知識を理解し、知能機械の設計、生産、計測と制御に関わる情報の整理・分析に的確に役立てることができる。 発信力 論理的かつ明晰な文章を記述し、読み手の知識を想定した分かりやすい資料の作成や効果的な口頭発表および的確な討論ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/ ）
（概要） 幅広い教養 科学技術に広く関わる知識を身につけさせるために物理関連の専門基礎科目を配置するとともに、多面的視点から考えさせる科目を配置する。 専門知識・技能 知能機械に関する様々な課題に対応できるように、機械 4 力学の科目および設計、生産、計測と制御に関する専門教育科目を配置する。 ライフデザイン力 科学技術が社会にどのように貢献できるかについて、その歴史や背景をもとに考え、自分の将来を構想させる科目を配置する。 メタ認知・実現力 目標の実現を目指して計画性と自己の客観的理解を实践させる科目を配置する。 グローバルマインド グループワークを通して相互理解と協調性を身につけさせる科目を配置する。 未来構想力 専門知識を活用して研究課題に対して新しい提案をさせる科目を配置する。

デジタル力 数理の基礎知識を理解し、知能機械を扱う際に役立てられるように、数学関連の科目を配置する。 発信力 専門知識をもとに自らの考えを論理的に文章や口答発表で伝える能力を養う科目を配置する。
入 学 者 の 受 入 れ に 関 す る 方 針 （ 公 表 方 法 ： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index）
（概要） 入学後の学習のための基盤になるのは高校までの授業科目です。これを十分に修得しておく必要があります。特に数学・物理・英語は必要不可欠です。具体的に、数学では、三角関数、指数・対数、微分積分、整式、ベクトル、複素数、高次方程式、2次曲線などであり、物理では物体の運動（力学）、電気と磁気（電磁気学）などです。また英語では、高校までに習う文法、単語を理解し、英語を実際に用いて、簡単なコミュニケーションをとれるレベルを必要とします。それが不十分と考えられる場合には、大学入学前はもちろん、入学後においてもこれを十分に補完することが求められます。授業においても、より主体的に自ら学ぶ姿勢が求められます。また他人に迷惑を掛けないで学生同士正しく協調しあって授業科目をより深く理解し、修得する努力を怠らないことが求められます。

学部等名 工学部電気工学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index ）
（概要） 日々進歩する電気・電子・情報工学の技術を理解し、習得するための素養と専門知識及び技術を身につけ、国際感覚と倫理観を有するとともに、地域産業のニーズも理解し、地域的また国際的連携の両方を意識して活躍できるグローバルな技術人材の養成を目的とする。
卒 業 又 は 修 了 の 認 定 に 関 す る 方 針 （ 公 表 方 法 ： https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/）
（概要） 幅広い教養 人文・社会・自然科学に関する幅広い知識に基づき、多面的視点から物事を考えることができる。 専門知識・技能 電気工学分野における基盤技術・ハードウェア・ソフトウェアを理解し、それらを応用して問題を解決できる能力を身につけている。 ライフデザイン力 将来目指すキャリアに向けた目標を設定し、実行と振り返りを繰り返し、その実現・達成に向けて取り組むことができる。 メタ認知・実現力 自らを客観的に理解し、種々の科学技術及び情報を用いて目的を達成するための知識・能力を身につけている。 グローバルマインド 国際的視点と倫理観を有し、異なる背景や価値観を持つ他者と協力して課題を解決する能力を身につけている。 未来構想力 社会的要求や自発的発想に基づきよりよい未来を構想し、その未来に向けた課題設定・問題解決能力を身につけている。 デジタル力 科学、技術および数理的知識に基づき情報を的確に整理・分析する能力を身につけている。 発信力 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/）
（概要） 幅広い教養 人文・社会・自然科学に関する幅広い知識を得るための科目を配置する。 専門知識・技能 電気工学分野における基盤技術・ハードウェア・ソフトウェアに関する科目を配置する。 ライフデザイン力 将来目指すキャリアに向けた目標の設定およびその目標の実現・達成に取り組むための科目を配置する。 メタ認知・実現力 種々の科学技術及び情報を用いて目的を達成するため知識、能力を身につけるための科目を配置する。 グローバルマインド 国際的視点と倫理観を身につけるための科目を配置する。 未来構想力 未来に向けた課題設定、問題解決能力を身につけるための科目を配置する。 デジタル力 科学、技術および数理的知識に基づき情報を的確に整理・分析するための科目を配置する。 発信力 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力を磨き、向上させるための科目を配置する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index）
（概要） 電気工学科では、「養成すべき人物像」にふさわしい以下に掲げる能力・資質をもつ学生を求めます。 ・電気に関連ある技術者になることを目指して、努力を惜しまず勉学に励み、得られた知識・技術を使って社会に役立つことをしたいという希望をもっている人。 ・目標ははっきりしていなくても、将来広く社会の役に立つ仕事に就きたいと強く思っている人。 ・旺盛な探究心を持って行動し、得られた知識や技術を知識レベルや背景の異なる第三者に分かりやすく伝えることのできる人。 ・広い視野に立って物事を考え、他者の立場や多様性を理解して他者とコミュニケーションをとる努力を惜しまず、さまざまな場面で適切に行動することのできる人。

学部等名 情報工学部情報工学科
教育研究上の目的（公表方法：http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index）
（概要） コンピュータのソフトウェア・ハードウェアの基礎及び応用を教授研究し、プログラミングに習熟させるとともに、インターネットや人工知能、知能ロボット、自然言語処理、画像処理、データベース、マルチメディア、CG、システム LSI などの最先端のコンピュータ技術・応用技術を持つ専門的職業人及び教育研究者の人材の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/）
（概要） 幅広い教養 リベラルアーツについて理解して、幅広い学問的知識から物事を柔軟に捉えることができる。 専門知識・技能 情報工学の技術者として必要な知識と技能を修得し、問題解決に応用できる。 ライフデザイン力 情報工学分野に対する継続的な学習を生涯にわたって行い、社会の変化にあわせつつ、自

身の人生のキャリアを目標をもって成長させることができる。

メタ認知・実現力
客観的な自己理解を行えるようにし、計画的かつ合理的に目標を実現できる。

グローバルマインド
多様な背景や価値観をもつ集団において、自身に与えられた課題を、他者を尊重しつつ協同解決できる。

未来構想力
自身のあるべき未来を構想し、種々の学問と技術の総合応用能力を駆使しつつ、独自の発想で新しい問題を解決できる。

デジタル力
数理法則の基礎、データサイエンス、機械学習などの基礎知識を理解して、情報工学の技術者としての確に情報を整理・分析できる。

発信力
論理的かつ明確なドキュメントを作成するとともに、的確なプレゼンテーションや討論などを行える。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
<https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/>）

（概要）

幅広い教養
情報工学に関する技術と現代社会との関係を理解・認識できるようになるため科目を配置する。

専門知識・技能
情報工学に関する各分野における基礎的な概念・理論を修得するための科目を配置する。

ライフデザイン力
情報学分野において、自ら継続的な学習し、意志決定を行えるようになるための科目を配置する。

メタ認知・実現力
変化し続ける社会の状況に対応しつつ、自身の課題に向き合い解決する能力を習得できるようになるための科目を配置する。

グローバルマインド
多様な背景や価値観をもつ人々とコミュニケーションをとりながら共同作業する能力を修得できるようになるための科目を配置する。

未来構想力
課題に対して総合的な能力から問題を解決できるようになるための科目を配置する。

デジタル力
数理の基礎知識を基盤として、大量なデータに対する分析・処理を行う能力を修得できるようになるための科目を配置する。

発信力
自身の考えを論理的にまとめ、プレゼンテーションや討論を行う能力を修得できるようになるための科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
<http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index>）

（概要）

入学者は、本学での学びを通じて「養成すべき人物像」に成長することが期待されています。社会や組織の中心的な役割を担える人物という点では、リーダーシップを発揮し物事に取り組んだ実績が求められます。さらに、高校までの数学の基礎知識を、本学の入学前教育なども含めて、身につけておくことが求められます。また、高度な技術力を有する専門的職業人や教育研究者という点では、理系科目の十分な学力と語学力が求められます。いずれの場合でも、周囲と協力しながら、主体的かつ積極的に物事に取り組める人物であることが求められます。

学部等名 情報工学部情報通信工学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index ）
（概要） 今日の情報通信関連技術は、あらゆる産業分野における基幹技術としての影響力を持つようになり、社会生活の中に深く関係している。このように情報通信工学の裾野が限りなく広がり、技術的な可能性が満ち溢れる世界で、独創性を発揮し、多様化する先端技術を開拓できる技術者及び情報通信関連分野の研究能力を有する人材の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/ ）
（概要） 幅広い教養 1. リベラルアーツの基礎を理解し、多面的に考える能力を示すことができる。 2. 技術が社会に与える影響や効果、および技術者としての責任について深く考える能力を示すことができる。 専門知識・技能 1. 情報工学、通信工学、およびコンピュータやネットワークの基礎知識を示すことができる。 2. 学習した知識を実際の技術と関連づけて理解することができる。 ライフデザイン力 自身の将来を設計し、問題解決に有用な方法を調べ、それを基に考えることができる。 メタ認知・実現力 自己理解を深め、問題を解決する方法を計画し実行することができる。 グローバルマインド 多様な価値観を持つ構成員グループにおいて、他者と協働しながら自己の行動を的確に判断し、実行することができる。 未来構想力 1. 問題解決に有用な方法を調査し、手順を計画し、実行できる。 2. 得られた結果を解析し、評価することができる。さらに、改善策を提示することができる。 デジタル力 1. 数学および物理学の基礎知識を基に自然現象などを数理現象としてとらえることができる。 2. 情報源となるデータを目的に合わせて収集し、分析し、活用することができる。 発信力 1. 日本語や英語の文章を読んで内容を正しく理解することができる。 2. 自分の考えを適切に文書や口頭で説明でき、そのために有用なプレゼンテーション能力を身につけることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/ ）
（概要） 幅広い教養 基本概念や理論、技術の社会的影響や技術者の責任を考える能力を身につける科目を配置する。 専門知識・技能 情報通信工学に関する深い専門性と多面的な思考力を身につける科目を配置する。 ライフデザイン力 与えられた制約条件の下で問題を設定し、解決するための技術を身につける科目を配置する。 メタ認知・実現力 自己の適性がどの分野に合致するかを見極めると共に、問題解決のための計画と実行能力を身につける科目を配置する。 グローバルマインド 人々と協調しながら自己を伸ばすことを自発的に行う能力を身につける科目を配置する。 未来構想力

世の中の変化を見据えながら、問題解決に必要な最新の技術や方法の調査から改善策を提示する構想力を身につける科目を配置する。 デジタル力 情報・通信工学の基礎となる数学や物理学を取り扱う科目を配置する。 発信力 専門的内容に関する説明や討論を円滑に進めるための論理的コミュニケーション能力を身につけるために、実験科目や卒業研究などの科目を配置する。
入 学 者 の 受 入 れ に 関 す る 方 針 （ 公 表 方 法 ： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index ）
（概要） 情報通信工学科は高度情報化社会の基盤であるインターネットに必要不可欠な情報通信・情報ネットワークに強い興味を持ち、情報通信工学分野の知識・技術を修得し、有線・無線通信技術者や情報・ネットワーク分野の資格取得を目指す学生を求めます。このため、理数系科目の基礎学力を身につけ、本学科の教育方針（カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）を理解し、多様な人々と協働して主体的かつ継続的に学修できる学生を歓迎します。

学部等名 情報工学部情報システム工学科
教育研究上の目的（公表方法：http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index）
（概要） 今日まで発展を遂げてきた情報技術が社会的基盤となり、人々の暮らしを支える情報システムのサービス形態は、変化・適用・深化を繰り返しながらこれからも発展し続けていくことが予想される。本学科では、情報技術、ロボット制御、生体システムを柱とする実践的教育を展開し、技術者倫理、コミュニケーション能力、エンジニアリングデザイン能力を身につけることで、社会の持続的発展に不可欠な情報システムの設計・開発・運用に携わる技術者の養成を目的とする。
卒 業 又 は 修 了 の 認 定 に 関 す る 方 針 （ 公 表 方 法 ： https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/ ）
（概要） 幅広い教養 リベラルアーツの基礎知識を理解し、多面的視点から物事を柔軟に考えることができる。 専門知識・技能 情報システム技術者として、応用情報、計測制御、生体情報分野に必要な知識と技能を身につけ、問題解決に応用できる。 ライフデザイン力 自身が目指す将来のキャリアを考え、自分の人生を構想し、目標をもって成長することができる。 メタ認知・実現力 自分の特徴を最大限生かすために、客観的な自己理解ができ、目標を計画的かつ合理的に実現できる。 グローバルマインド 多様な価値観の構成員グループにおいて、自身および他者の役割を理解し、構成員と協働して与えられた課題に取り組むことができる。 未来構想力 自身が目指す未来を構想し、種々の学問と技術の総合応用能力を駆使し、問題を新しい発想で解決できる。 デジタル力 数理法則の基礎、データサイエンス、機械学習の基礎知識を理解し、情報システムエンジニアとしての的確に情報を整理・分析できる。 発信力 論理的かつ明晰な文章を記述し、読み手の知識を想定した分かりやすい資料を作成し、効

果的な口頭発表と的確な討論ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/ ）
（概要） 幅広い教養 多面的視点から思考する力を身につけるために、リベラルアーツの各分野の科目、技術者の倫理と歴史に関する科目を配置する。 専門知識・技能 情報システム工学における、応用情報、計測制御、生体情報分野に必要な知識と技能を身につけるための科目を配置する。 ライフデザイン力 進路や職業について理解し、自身の将来を設計・構想する力を身につけるための科目を配置する。 メタ認知・実現力 自身の適性を理解し、計画的に目標に取り組み実現する力を身につけるための科目を配置する。 グローバルマインド 自身および他者の役割を理解し、多様な価値観の構成員と協働する力を身につけるための科目を配置する。 未来構想力 自身が目指す未来を構想し、新しい発想で問題を解決する力を身につけるための科目を配置する。 デジタル力 情報を的確に整理・分析する力を身につけるために、数理法則の基礎、データサイエンス、機械学習の基礎知識に関する科目を配置する。 発信力 自らの考えを適切に伝える力を身につけるために、コミュニケーション能力、技術文書作成、プレゼンテーションに関する科目を配置する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index ）
（概要） 数学・理科・情報の素養を持った学生、特にグローバルな視点から ICT 機器、ロボット、人工知能いずれかの学習分野に興味を持った学生の入学を希望します。入学後の学習のために基礎となる科目は、数学、物理、プログラミングであり、特に数学と物理は専門科目の内容を理解するために不可欠となります。また、入学後においてはグループ演習を中心に行われる講義や実験科目が多く配置されているため、社会的マナーやコミュニケーションなどの基本的素養を、身につけておくことが望まれます。

学部等名 情報工学部システムマネジメント学科（2024 年 4 月募停）
教育研究上の目的（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index ）
（概要） 高度に情報化、国際化が進む現代社会において、企業の生産管理技術と情報管理技術について、経営、生産、メディアの観点から基礎的な素養を身につける教育を行い、それらの知識に裏付けされた人間哲学に基づいてシステムのマネジメントを行える人材の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/ ）

(概要) A 地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養 1. 経営工学に関する諸問題に対して、高度情報化とグローバル化に対応できる総合的な分析能力、問題発見能力および解決能力を身につけている。 B 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に対する理解 1. 経営および情報に関する技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解している。 2. 利己的に走るのではなく、社会の公器としての働きを学習し、社会全体の利益を追求する姿勢を修得している。 C 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力 1. 高度情報化社会で多量に取得できるデータをコンピュータを用いて処理できる数学および自然科学に関する知識を修得している。 2. 社会現象の中で、統計的データから物事の因果関係を類推し、知識として理解し、社会活動に応用する能力を修得している。 D 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 1. 統計学や最適化に関するさまざまなアルゴリズムを使って、複雑な経営システムに関する問題発見および分析を行える専門的知識を修得している。 2. 情報技術を使って経営に関する意思決定問題を解決し、その根拠を他人に説明することができる能力を修得している。 E 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力 1. 社会の要求を解決するために情報技術および経営情報学に関する情報を積極的に入手し、既修得の知識・技能と統合して活用することで、自らが立てた課題にそれらを適用して、その課題を解決する能力を修得している。 F 論理的な記述力、口頭発表能力、討議等のコミュニケーション能力 1. 自分の意見を論理的に記述し、プレゼンテーションを行う能力を修得している。 2. 英語による専門知識の習得およびそれに付随する最新の情報の獲得と基礎的なコミュニケーション能力を修得している。 G 能動的、継続的に学習し、自主的に問題解決に取り組む能力 1. 情報技術および経営手法について、能動的かつ継続的に学習し、それを自らが興味をもつ経営における意思決定問題に活用して解決する能力を修得している。 H 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力 1. 取り組む仕事に対して、技術面での解決にのみ拘るのではなく、コスト、品質や時間等までを考慮して総合的に解決をはかることができるマネジメント能力を修得している。 I チームワークを重視して、共同作業に従事する能力 1. 他者と協調および共同して作業できる能力を身につけている。 2. 他者に作業の方向性を示すことができ、目標の実現のために動員できる能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/）
(概要) 現代のマネジメントは、インターネットをはじめとしたネットワーク上などの、身の回りに存在する種々多様で膨大な情報を自由自在に扱い、企業などの経営戦略への確に活用することが求められる。本学科では、経営・マネジメント分野における課題発見、探求力、実行力の素養を持った技術者を育成するため、情報工学に基づく意思決定手法に関する学際的教育を行う。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index）

(概要) システムマネジメント学科の「養成すべき人物像」にふさわしい能力、と以下の資質をもつ学生を求めます。 ・経営工学と情報技術に強い興味と探求心をもち、それらに関する専門知識と専門技術を修得する意欲が高い者。 ・未知の問題に対しても挑戦し、その成果を積極的に発表していく意欲をもつ者。 ・経営分野の諸問題に関心を持ち、情報学を基点とする多面的視点から創造・研究活動を行い、会得した知識を活用して地域社会に貢献したいと考える者。

学部等名 情報工学部情報マネジメント学科 (2024 年 4 月開設)
教育研究上の目的 (公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index)
(概要) IT スキルやデータサイエンスに関する知識と技術及び経営工学に関する知識の修得とともに、情報の活用による組織の価値を高めるためのマネジメント手法を修得させる教育を行い、情報処理と情報分析に関する理論や手法を組織活動の場面に適用することができる行動力をもって、組織の知力の向上や組織の価値の創造に貢献できる人材の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/)
(概要) 幅広い教養 経営および情報に関する技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、社会全体の利益を追求する姿勢を修得することができる。 専門知識・技能 高度情報化とグローバル化に対応し、最適化手法、統計学、情報技術などを活用し、複雑な経営システムに関する諸問題を発見・分析・解決することができる。 ライフデザイン力 経営工学及びデータサイエンスについて、能動的かつ継続的に学習し、それを自らが興味をもつ経営における意思決定問題に活用して解決することができる。 メタ認知・実現力 社会の要求を解決するために経営工学及びデータサイエンスに関する情報を積極的に入手し、既修得の知識・技能と統合して活用することで、自らが立てた課題にそれらを適用して、その課題を解決する能力を修得することができる。 グローバルマインド 異なる背景や文化を持つ人々と英語でコミュニケーションしながら協働作業する能力、グローバルリーダーシップ力を修得することができる。 未来構想力 取り組む課題や仕事に対して、技術面での解決にのみ拘るのではなく、コスト、品質、時間などを総合的に考慮し、持続可能なソリューションを提供することができる。 デジタル力 数理の基礎知識を基に、デジタル社会で多量に取得できるデータをコンピュータを用いて処理・分析し、社会活動に応用する能力を修得することができる。 発信力 自分の意見を論理的に記述し、プレゼンテーションを行う能力を修得することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/)

(概要) 幅広い教養 経営および情報に関する技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、社会全体の利益を追求する姿勢を修得することができるようになるための科目を配置する。 専門知識・技能 高度情報化とグローバル化に対応し、最適化手法、統計学、情報技術などを活用し、複雑な経営システムに関する諸問題を発見・分析・解決することができるようになるための科目を配置する。 ライフデザイン力 経営工学及びデータサイエンスについて、能動的かつ継続的に学習し、それを自らが興味をもつ経営における意思決定問題に活用して解決することができるようになるための科目を配置する。 メタ認知・実現力 社会の要求を解決するために経営工学及びデータサイエンスに関する情報を積極的に入手し、既修得の知識・技能と統合して活用することで、自らが立てた課題にそれらを適用して、その課題を解決する能力を修得することができるようになるための科目を配置する。 グローバルマインド 異なる背景や文化を持つ人々と英語でコミュニケーションしながら協働作業する能力、グローバルリーダーシップ力を修得することができるようになるための科目を配置する。 未来構想力 取り組む課題や仕事に対して、技術面での解決にのみ拘るのではなく、コスト、品質、時間などを総合的に考慮し、持続可能なソリューションを提供することができるようになるための科目を配置する。 デジタル力 数理の基礎知識を基に、デジタル社会で多量に取得できるデータをコンピュータを用いて処理・分析し、社会活動に応用する能力を修得することができるようになるための科目を配置する。 発信力 自分の意見を論理的に記述し、プレゼンテーションを行う能力を修得することができるようになるための科目を配置する。
入 学 者 の 受 入 れ に 関 す る 方 針 （ 公 表 方 法 ： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index ）
(概要) 情報マネジメント学科の「養成すべき人物像」にふさわしい能力と、以下の資質をもつ学生を求めます。 ・経営工学とデータサイエンスや情報技術に強い興味と探求心をもち、それらに関する専門知識と専門技術を修得する意欲が高い者。 ・未知の問題に対しても挑戦し、その成果を積極的に発表していく意欲をもつ者。 ・経営分野・データサイエンスの諸問題に関心を持ち、情報学を基点とする多面的視点から創造・研究活動を行い、会得した知識を活用して地域社会に貢献したいと考える者。

学部等名 社会環境学部社会環境学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/index ）
(概要) 環境に関わる諸問題に関して主として社会科学の立場からアプローチし、個人・企業・社会全体の仕組みを理解した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる実践型の人材の養成を目的とする。
卒 業 又 は 修 了 の 認 定 に 関 す る 方 針 （ 公 表 方 法 ： https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/ ）

(概要) 幅広い教養 多様な学問領域からの知識を融合させ、持続可能な社会の理解に役立つ教養を得ることができる。 専門知識・技能 環境調和型社会実現に必要な専門知識と技能を修得し、現実の社会問題に応用することができる。 ライフデザイン力 社会の変化に合わせ自己実現に向けたキャリアを構想し、ライフスタイルを設計することができる。 メタ認知・実現力 自己理解を深め、適性も見極めながら目標を設定し、自己調整学修を実践することができる。 グローバルマインド 多様な価値観やバックグラウンドを持つ他者を尊重しながら問題解決に向けて協働できる。 未来構想力 未来の社会を想像し、新たな価値を実現できる。 デジタル力 数理や AI、データサイエンス、ICT の知識に基づいて、データを的確に分析し、状況を把握できる。 発信力 効果的なコミュニケーション能力を養い、論理的に情報を伝えることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/ ）
(概要) 幅広い教養 人文科学、社会科学、自然科学に関する基本的な概念や理論を、幅広く理解し、社会事象を多角的に理解するための科目を配置する。 専門知識・技能 社会事象を多面的に理解する上で必要な専門知識を理論と実践を通じて修得するための科目を配置する。 ライフデザイン力 主体的学習を通じて知識探求の重要性を認識し、学生生活やその後の人生についても洞察を深められるための科目を配置する。 メタ認知・実現力 関心分野を見極めると共に、学修目標に向けて創造的に課題を克服するための科目を配置する。 グローバルマインド 国際社会の現状と課題を理解し、課題解決に向け多様な価値観を持つ人々との協働を可能にするための科目を配置する。 未来構想力 持続可能な未来に向けた新しい価値の創出に必要な思考力と創造性を構築するための科目を配置する。 デジタル力 数理や AI、データサイエンス、ICT の基礎知識と応用能力を修得し、これを社会問題の解決に活用するための科目を配置する。 発信力 論文作成や発表に必要な文章力と自己表現力を向上させるための科目を配置する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/index ）

(概要)

本学科では、環境問題に関わるさまざまな現象に関心を持つだけでなく、地域社会やビジネスにおいて解決を必要とする課題を発見し、自ら解決できるような知識と技能を修得する意欲がある学生を求めています。具体的には、本学科での勉学に必要な基礎的・基本的な知識・技能を有し、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を修得した上で、本学科において、主体的に地域社会やビジネスに関する専門知識を修得したいと考えている人、そしてその学修の成果を地域社会やビジネスにおいて生かしたいと考えている人を求めています。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：『学校法人 福岡工業大学 組織図』
<http://www.fit.ac.jp/daigaku/syokai/soshiki>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3 人	－					3 人
工学部	－	33 人	19 人	人	7 人	人	59 人
情報工学部	－	33 人	19 人	3 人	5 人	0 人	60 人
社会環境学部	－	20 人	8 人	0 人	1 人	0 人	29 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		122 人					122 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：					
		『教員一覧・研究概要(工学部)』					
		http://www.fit.ac.jp/gakubu/kougaku/kyoin_kougaku					
		『教員一覧・研究概要(情報工学部)』					
		http://www.fit.ac.jp/gakubu/joho_kougaku/kyoin_joho_kougaku					
		『教員一覧・研究概要(社会環境学部)』					
		http://www.fit.ac.jp/gakubu/syakai_kankyo/kyoin_syakai_kankyo					
		『教員一覧・研究概要(教養力育成センター)』					
		https://www.fit.ac.jp/gakubu/kyoyo_center/kyoin_kyoyo					
		『福岡工業大学研究者総覧』					
		https://researcherdb02.fit.ac.jp/html/home_ja.html					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	380 人	476 人	125.2%	1,520 人	1,802 人	118.6%	0 人	0 人
情報工学部	400 人	521 人	130.6%	1,575 人	1,907 人	121.1%	0 人	13 人
社会環境学部	160 人	211 人	131.9%	700 人	822 人	117.4%	60 人	17 人
合計	940 人	1,208 人	128.5%	3,795 人	4,531 人	119.4%	60 人	30 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	361 人 (100%)	44 人 (12.2%)	311 人 (86.1%)	6 人 (1.7%)

情報工学部	404 人 (100%)	49 人 (12.1%)	350 人 (86.6%)	5 人 (1.2%)
社会環境学部	147 人 (100%)	4 人 (2.7%)	141 人 (95.9%)	2 人 (1.4%)
合計	912 人 (100%)	97 人 (10.6%)	802 人 (87.9%)	13 人 (1.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業計画（シラバス）は、毎年２月に科目担当教員が『シラバス作成の手引き』及び『成績評価ガイドライン』に従い、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーは基より、授業形態の表記、教職課程、実務経験、各授業のテーマ、授業外学習内容、ICTの活用、オフィスアワー等を考慮しながら、シラバス管理システムにて作成する。その後、各学科教員および教務課職員による第三者チェックにより、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの整合性や達成目標と成績評価方法等の適合性について確認する。この後、科目担当教員、教務課職員による修正の後、最終シラバスチェックを行い、４月１日にシラバスを公開する。なお、各シラバスには当該科目における前年度の授業アンケート結果がリンクされており、受講者の評価やコメントを参照することができる。 この他、シラバスの記載内容は、学生が理解できるように最大限配慮し、授業科目の目標や授業内容、参考図書、履修上のアドバイス、成績評価方法、成績評価基準等の記載内容等について、学生便覧に『シラバスの見方』を例示して説明している。また、各学科において習得する知識・能力（ディプロマ・ポリシー）と科目の関与度についても一覧表で示している。なお、2025年度入学生より新ディプロマ・ポリシーのもと行っている。 ●シラバスに記載する科目のディプロマ・ポリシーと達成目標（例）					
DP	共通コンピテンシー		関与度 (%)	達成目標	
DP1	A	幅広い教養	20	情報工学を学ぶ上で必要となる最低限の知識やスキルを修得し、活用することができる。	
DP1	B	専門知識・技能			
DP2	C	ライフデザイン力			
DP2	D	メタ認知・実現力			
DP3	E	グローバルマインド	40	自主的に学修スケジュールを計画し、さらに他者との協働やチーム内での分担を通じて、着実かつ継続的に設定された課題を遂行することができる。	
DP3	F	未来構想力	10	情報工学分野における数学や自然科学との関わりを理解し、説明することができる。	
DP4	G	デジタル力			
DP4	H	発信力	30	論理的な記述、口頭発表・討議など基本的なコミュニケーションのスキルを身につけている。	

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 学生が修得する資質・能力について、A～Hを定義しており、この方針に基づき各学科におけるディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を設定し卒業認定および学位授与を行っている。工学部学生は132単位、情報工学部、並びに社会環境学部学生は124単位を取得すれば、ディプロマ・ポリシーに合う卒業に必要な資質・能力を修得したと教授会にて判定され、学長が学位を授与する。 A. 幅広い教養：リベラルアーツを目指した知識と思考力 B. 専門知識・技能：当該分野において必要とされる知識と技能 C. ライフデザイン力：自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力 D. メタ認知・実現力：自らを客観的に理解し、目標を実現できる力 E. グローバルマインド：異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力 F. 未来構想力：より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力 G. デジタル力：数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力 H. 発信力：自らの考えを適切に伝えることができる力				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	電子情報工学科	132 単位	有・無	49 単位
	生命環境化学科	132 単位	有・無	49 単位
	知能機械工学科	132 単位	有・無	49 単位
	電気工学科	132 単位	有・無	49 単位
情報工学部	情報工学科	124 単位	有・無	49 単位
	情報通信工学科	124 単位	有・無	49 単位
	情報システム工学科	124 単位	有・無	49 単位
	システムマネジメント学科 (情報マネジメント学科)	124 単位	有・無	49 単位
社会環境学部	社会環境学科	124 単位	有・無	44 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：『学生便覧 0』 https://www.fit.ac.jp/gakusei/seika/binran		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： 『教育・研究活動報告書』 http://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/kyouikukenkkyu 『FD Annual Report』 http://www.fit.ac.jp/kyoiku/kyoikushien/fd/kanko 『学生便覧（修学履修登録）』 https://www.fit.ac.jp/gakusei/seika/binran		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： 『Campus Facility Report』 https://www.fit.ac.jp/shisetsu/campus/h28_renewal 『学内マップ』 https://www.fit.ac.jp/shisetsu/campus/map/ 『施設・設備データ』 https://www.fit.ac.jp/shisetsu/campus/map/shisetsu_data 『教育・研究活動報告書』 http://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/kyouikukenkkyu 『福岡工業大学パンフレット』

<http://www.fit.ac.jp/daigaku/kouhou/index>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
工学部	電子情報工学科	980,000 円	200,000 円	390,000 円	施設設備費 実験実習費 図書費 学生厚生費
	生命環境化学科				
	知能機械工学科				
	電気工学科				
情報工学部	情報工学科	980,000 円	200,000 円	390,000 円	
	情報通信工学科				
	情報システム工学科				
	情報マネジメント学科				
社会環境学部	社会環境学科	764,000 円	200,000 円	200,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 1. 成績不振の学生の状況把握と指導 本学では、学生情報管理システムを導入しており、教職員が学生の時間割、成績、授業出欠状況を逐次把握している。このシステムを活用し、各学科クラス担任、ゼミナール、卒業研究の指導教員および事務局において多欠席や単位不足の学生にタイムリーな指導を行っている。なお、学生の出席状況や成績情報は、保護者もWEBにより閲覧可能となっているほか、教育後援会主催の各地域別教育懇談会に各学科教員及び事務局職員が赴き、保護者と個別の相談会も実施している。また、多欠席者や単位不足者を対象にしたオリエンテーションを定期的実施している。 2. 学生の能力に応じた補習教育、専門科目の学習サポート 本学では、基礎学力に問題を抱える学生を支援する組織として、学習支援センターを設置し、数学とレポート・スキルの講座を開講している。また、全在生を対象として専門科目や英語、その他大学での学びについて先輩への修学相談を行うことができる「FIT-in サポート」を運営している。 3. 経済的支援の整備 学生が安心して修学を継続できるよう、本学では日本学生支援機構奨学金をはじめ、大学の特別奨学制度により学費の半額を免除する支援を行っている。 4. 障がいのある学生に対する修学支援 学生相談室には、カウンセラー4名を配置している。また、保健室は常時2名が対応できる体制を採っている。もとより、障がいのある学生を支援するため、「福岡工業大学障がい学生等支援に関する基本方針」を定め、それに基づき全学的に対応している。 5. 「入学金」と「前期授業料等」の納付の猶予 本学への入学が確約しており、日本学生支援機構から「奨学生採用候補者決定通知」が交付され、「給付奨学金」の採用候補者に決定している方を対象に、入学手続き時に必要な「入学金」と「前期授業料等」の納付を、入学後（6月末）まで猶予している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組

1. 就職支援

(1) 学生対象

- ① 支援体制：学科担当制、学部総括責任者制
- ② 正課授業：
 - 「キャリア・デザイン」
 - 「コミュニケーション・デザイン」
 - 「自己成長と学び」
 - 「仕事理解型実習」
 - 「課題解決型インターンシップ」
- ③ 就職支援講座プログラム：
 - 「就職ガイダンス」
 - 「業界・企業の見つけ方と職種理解講座」
 - 「インターンシップフェア事前ガイダンス」
 - 「自己分析・自己PR対策講座」
 - 「生成AIを活用したガクチカ・強みの言語化講座」
 - 「SPI受検会」
 - 「採用担当者から学ぶ面接対策講座」
 - 「インターンシップ参加のための就活マナー講座」
 - 「グループディスカッション入門講座」
 - 「学科別就職ガイダンス」
 - 「全員面談（個人面談）」
 - 「公務員希望者ガイダンス」
 - 「業界研究フェア事前ガイダンス」
 - 「全国一斉WEB模擬テスト受検会」
 - 「学内合同企業セミナー事前ガイダンス」
 - 「採用選考対策講座」
 - 「未内定者ガイダンス」
 - 「模擬面接」
- ④ インターンシップ：
 - インターンシップフェア事前ガイダンス
 - インターンシップフェア
- ⑤ 上場・大手企業希望者向け就職支援講座：
 - トップアップ講座

(2) 教職員対象

- ① 教職員「就職指導セミナー」
- ② 資格取得・研修実施：
 - 国家資格キャリアコンサルタント資格取得
 - 就職課職員全員対象セミナー
- ③ 実就職率向上キャンペーン

(3) 保護者対象

- ① 3年生父母等就職ガイダンス
- ② 4年生父母等面談

2. 就職斡旋

- (1) 2月：「学内合同企業セミナー」の開催

(2) 4・6・9月：「学内合同企業説明会」の開催 (3) 6月：「インターンシップフェア」の開催 (4) 12月：「業界研究フェア」の開催 (5) 11月～2月：「OBOGトーク」の開催 (6) 3月～10月：「学内単独企業説明会」の開催 (7) 随時：学科「業界研究会」の開催 3. 求人開拓 (1) 企業開拓：関東地区・関西地区・福岡地区担当制 (2) 企業とのネットワーク構築：「企業交流会」の開催 4. その他 (1) 交通費支援制度 (2) 求人情報検索システム (3) 就職活動記録（内定報告）検索システム (4) 福工大 OB アドバイザー制度	c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 （概要） 1. 定期健康診断 在学生を対象に実施。再検査、治療が必要な学生については、本人または保証人に連絡 2. 学生相談室 臨床心理士が相談に応じるほか、定期的に精神科による「心の健康相談」を実施。教職員を対象に、事例研究（勉強会）を実施。また学生の居場所づくりのために、気軽に利用できるフリースペースを設けている。 3. 保健室 学内での発病やけがの場合に応急措置を講じる。 身長・体重・体脂肪・血圧などの測定ができる。 4. 新入生健康診断およびweb 健康調査のフォロー 新入生健康診断時の問診票およびweb 健康調査の結果により、案件に応じて学生相談室や保健室にて健康相談を行っている。 5. キャンパス内全面禁煙 キャンパスでの受動喫煙防止、学生の喫煙習慣防止のために、最大限配慮した環境づくりを進めている。 6. 課外活動 課外活動を通じて、心身の健康と学生生活の充実を図るために、新規サークル立ち上げ支援や優秀な成績を収めた団体や個人に対する表彰制度、および金銭面での不活性を極力減らすために、経費の補助などを実施。
---	---

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：『教育・研究活動報告書（IR レポート）』
<http://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/kyouikukenkkyu>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F140310110758
学校名（〇〇大学 等）	学校法人福岡工業大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	福岡工業大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		1,394人（695）人	1,330人（682）人	一人（一）人
内 訳	第Ⅰ区分	337人	330人	
	（うち多子世帯）	（54人）	（58人）	
	第Ⅱ区分	189人	192人	
	（うち多子世帯）	（32人）	（30人）	
	第Ⅲ区分	138人	125人	
	（うち多子世帯）	（36人）	（27人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	157人	116人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	155人	136人	
	区分外（多子世帯）	418人	431人	
家計急変による 支援対象者（年間）				一人（一）人
合計（年間）				1,465人（696）人
（備考） 遡及取消になった奨学生を除く				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	56人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	20人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	20人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	33人	人	人
計	91人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	一人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	一人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	11人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	一人	人	人
GPA等が下位4分の1	156人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	89人	人	人
計	192人	人	人
(備考) 終了（警告）は除く			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。